

## 第1・2回 教育支援コーディネーター・ミーティング（報告）

### 新しい「学習指導要領」から学ぶ

～「思考力・判断力・表現力の育成」に向けた学習支援とは～

各地域で活動する教育支援コーディネーターのスキルアップとネットワークづくりのために、研修会「教育支援コーディネーター・ミーティング」を開催しています。

平成23年度最初の「教育支援コーディネーター・ミーティング」のテーマは、「新しい『学習指導要領』から学ぶ」です。3月11日、コーディネーター・ミーティング開催中に被災し研修が中断したことから、あらためて同様のテーマで、水道橋と国分寺の2会場、それぞれで開催したものです。各会場とも、約50名近い方々にご参加いただきました。

国立教育政策研究所初等中等教育研究部主任研究官の山森光陽さんに、学習支援を行う立場にとって、学校理解の基礎ともいえる「学習指導要領」「年間指導計画」「時間割」「評価規準」について、また「思考力の育成に向けた学習支援の在り方」について解説していただき、その後グループワークを通じて、授業案の構想にチャレンジしました。

#### ■開催日時、開催場所

第1回：5月27日（金） 14時～17時

東京都教職員研修センター研修室

第2回：6月10日（金） 14時～17時

国分寺市立Lホール

#### ■対象

教育支援コーディネーター（学校支援コーディネーター、地域コーディネーター）

（区市町村）学校支援地域本部事業担当者

#### ■参加者

第1回

大田区（7）、世田谷区（5）、杉並区（9）、北区（1）、荒川区（1）、板橋区（3）、葛飾区（1）、江戸川区（2）、調布市（2）、小平市（2）、団体等（6） 計39人

第2回：

世田谷区（1）、杉並区（5）、北区（1）、三鷹市（2）、調布市（1）、町田市（6）、小平市（16）、福生市（4）、東大和市（1）、あきる野市（3）、団体等（5）、 計45人

## ■ テーマ

新しい「学習指導要領」から学ぶ

～「思考力・判断力・表現力の育成」に向けた学習支援とは～

## ■ プログラム内容

・「話題提供」（14時から15時）

国立教育政策研究所の山森さんに、「義務教育における機会均等の仕組みと機会均等の仕組みとしての学習指導要領から見る思考力の育成に向けた学習支援の在り方」と題して、

- (1) 義務教育の機会均等と水準確保
- (2) 学習指導要領
- (3) 新学習指導要領完全実施にともなう学校の変化
- (4) 指導要録
- (5) 思考力の育成に向けた学習支援の在り方
- (6) 学校支援への反映

の柱でお話いただきました。

なかでも、コーディネーター自身が担当する学校への理解の重要性、支援の目的は外部資源の導入ではなく、目指すべきは子供たちの思考力の育成に寄与する支援であること、そのためにも貴重な授業に投入するコンテンツを厳選する必要性を、強調して伝えていただきました。



〔水道橋会場〕



〔国分寺会場〕

・グループワーク（15時から17時）

後半は、山森さんのお話を受けて、グループに分かれ、「震災」をテーマとして、身近で多様なリソースを教育資源とするためのワークショップに取り組みました。

ひとりずつで「震災」にまつわるキーワードを書き出す作業の後、資料として配布されている小学校の社会と理科の「評価規準」を踏まえながら、外部資源を実際の授業に結びつけるトレーニングとして、グループごとに授業の案を作成することを試みました。



〔水道橋会場でのグループワークの様子〕

5月27日の水道橋でのワークショップの結果（授業案のアイデア）を、6月10日に国分寺で披露し、授業案づくりのグループワークに活かすという試みも行いました。



〔国分寺会場でのグループワークの様子〕

国分寺会場での最後に、山森さんから総評として、次の3つの観点を提示していただきました。

身につく能力ー「評価規準」にあるような具体的な能力、教科等の目的との関連  
子供の姿 ー具体的に見える行動・表現  
場面の設定 ー新規性とリアリティ、興味・関心、（中学年以降）実用性

## ■参加者の感想より

今回の研修の後、「すぐに学習指導要領を手に入れた」といったコーディネーターの方からの反響もいただきました。以下のような感想が寄せられました。

〔水道橋会場〕

「（山森さんの）45分後の子どもの姿を想定して、という言葉が心に残りました。」

「初めての参加で、何も分からなかったのですがグループワークでいろいろ話ができ、大変良かった。」

「具体的なテーマで考えることができとても勉強になりました。具体的に考えることが大切だと思いました。」

〔国分寺会場〕

「『（山森さんが）具体的に“どんな力を身につけて欲しいのか”を設定すること』を強調されていたのに強く共感しました。」

「学習支援にはまだ関わっていないので、これからの勉強になりました。」

「学習指導要領にがんじがらめだと思っていた認識が改まりました。」

「先生との話し合いの切り口が見えてきてよかった。」